



2021年3月期第2四半期決算説明資料



2020年10月28日
メタウォーター株式会社

<セグメント情報>

- プラントエンジニアリング事業(略語:PE事業):国内EPC事業、海外事業
当セグメントでは、浄水場内の浄水プロセス、下水処理場内の下水処理プロセス、汚泥処理プロセス、燃料化プロセスに使用する機械設備の設計・建設と、それらを運転、監視、制御するための電気設備の設計・建設を核とした各種エンジニアリングを主たる業務としています。
- サービスソリューション事業(略語:SS事業):国内O&M事業、国内PPP事業
当セグメントでは、浄水場、下水処理場、ごみ処理施設・リサイクル施設向けの機械設備や電気設備の補修工事、運転・維持管理(保守・点検)、運営などの各種サービスを主たる業務としています。

<語句説明>

EPC	Engineering, Procurement and Construction:設計・建設
O&M	Operation and Maintenance:運転・維持管理
PPP	Public-Private Partnership(公民連携):公共サービスの提供に民間が参画する手法
PFI	Private Finance Initiative:公共施設の設計・建設、運転・維持管理、運営、資金調達に民間を活用する公共事業の手法
DBO	Design, Build and Operate:公共施設などの設計・建設、運転・維持管理に民間を活用する公共事業の手法
コンセッション	公共施設の所有権と事業経営の認可を公的機関に残したまま、民間企業に事業運営権を長期間にわたって付与する手法

■2021年3月期第2四半期(累計)における新型コロナウイルス感染拡大影響

- ・海外事業において一部売上時期の遅れが生じたが、通期では問題ないレベル。

■2021年3月期通期業績予想の修正

- ・「中期経営計画2020」(2021年3月期 売上高1,300億円、営業利益90億円)の達成の見通しが立った。
- ・年金資産運用におけるボラティリティの低減、コーポレートガバナンス・コードへの対応を図るため、当社が退職給付信託に拠出している株式を売却する。
- ・コロナ禍、公衆衛生の要である「水・環境インフラ」の持続に尽力する当社グループ従業員と家族の労に報い慰労金の支給を検討。

これらの業績への影響を織り込み、2021年3月期通期業績予想を修正する。



目次

I 2021年3月期第2四半期決算ハイライト

II 2021年3月期通期業績予想の修正

III 2021年3月期第2四半期決算概要



目次

I 2021年3月期第2四半期決算ハイライト

II 2021年3月期通期業績予想の修正

III 2021年3月期第2四半期決算概要

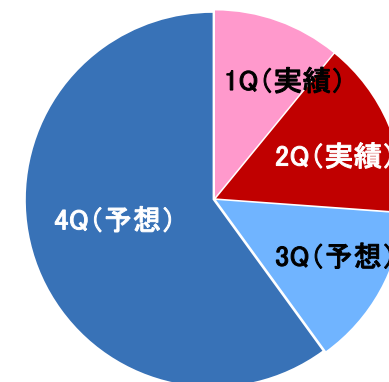
'21/3期2Q 決算ハイライト(連結)

* 受注高

国内EPC、海外、PPPが好調に推移し前期実績を大幅に上回る。

(参考)受注残高: '20/3期2Q末 1,748億円 ⇒ '21/3期2Q末1,789億円

'21/3期四半期別売上構成



* 売上高・利益

当社グループの事業は、国内公共事業が大半を占め、売上、利益が4Qに著しく偏る傾向があり、例年2Q累計の売上高は年間の25%程度。(当2Q累計の売上高も例年並みの水準)

当2Q累計の実績は、前2Q累計との案件構成の違いにより減益となったが、売上高、各利益とも概ね計画どおりに推移。

(億円)

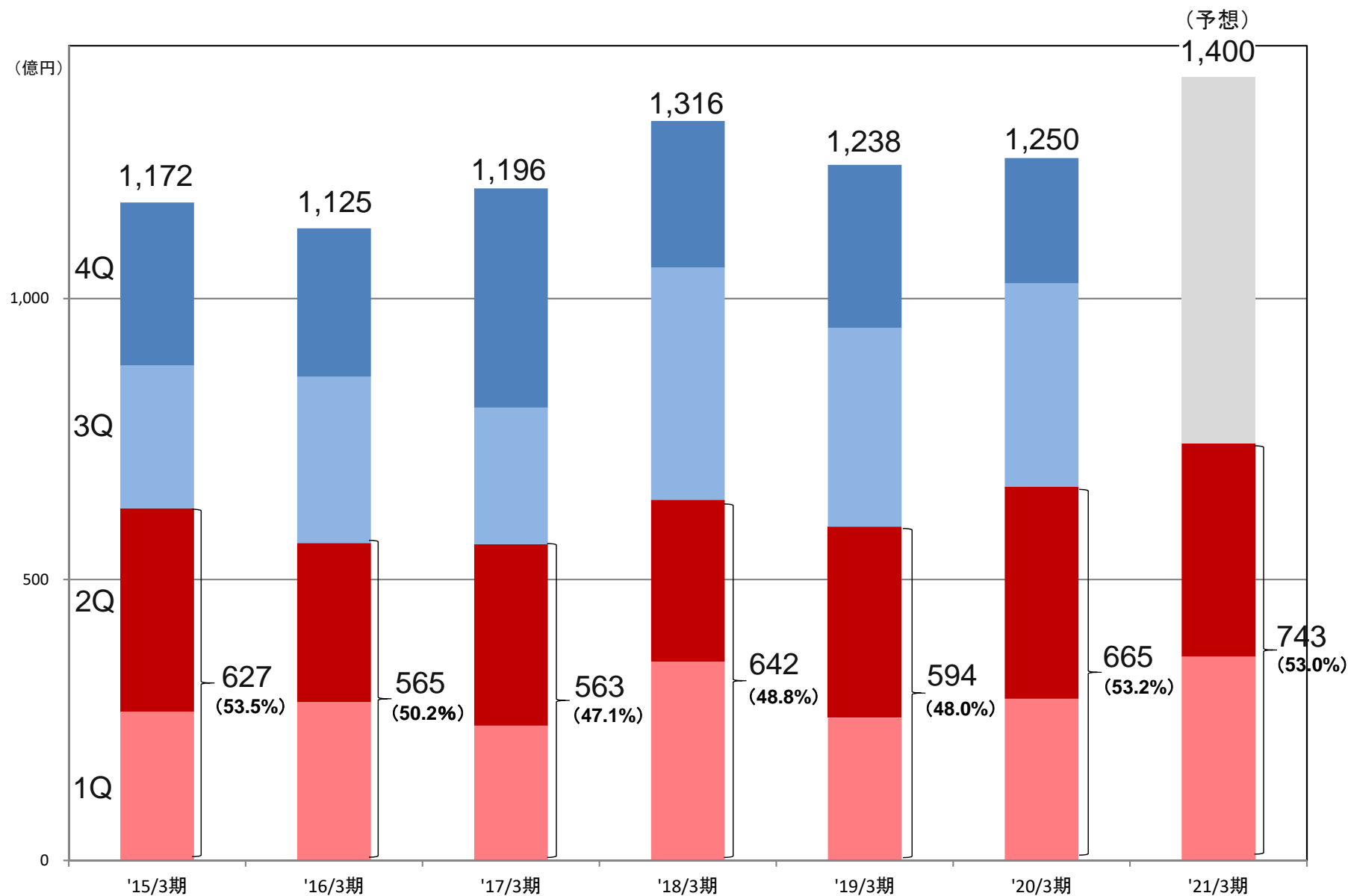
	受注高	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 四半期純利益	第2四半期末 配当金(円)
'21/3期 2Q実績	743	340	-35	-35	-27	*40
	前期比: +78 +11.7%	前期比: ▲1 ▲0.2%	前期比: ▲5	前期比: ▲4	前期比: ▲5	
'20/3期 2Q実績	665	341	-30	-31	-22	31

※10百万円単位を四捨五入(以降の実績値も同様)

*2020年10月1日付の株式分割(1株を2株に分割)は考慮していません。

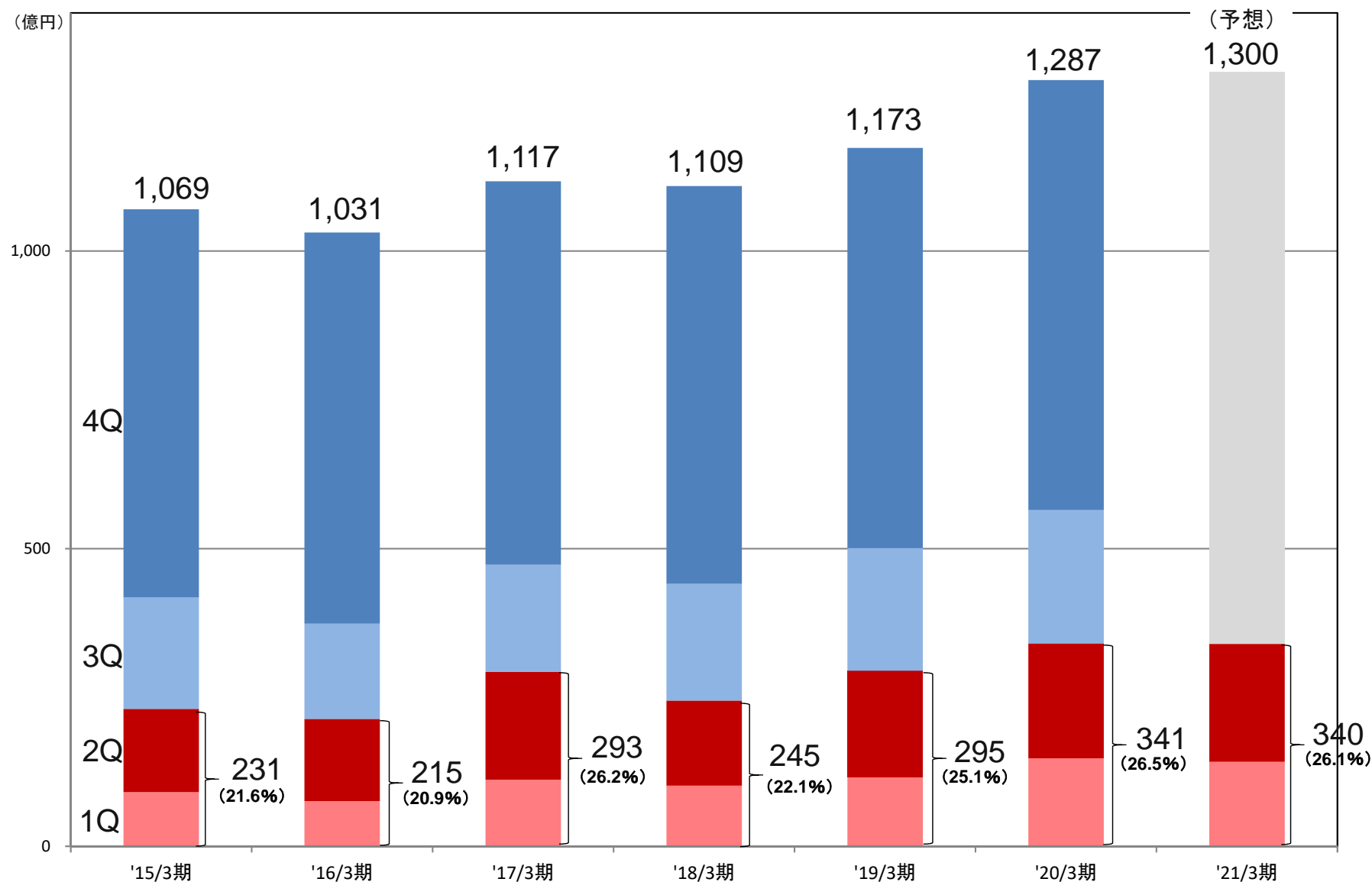
'21/3期2Q 受注高推移

例年2Q累計の受注高は年間の50%前後。当2Q累計も例年並みの水準。



'21/3期2Q 売上高推移

例年2Q累計の売上高は年間の25%前後。当2Q累計の売上高も例年並みの水準。



事業活動

- * 下水道の新たな高度処理技術「嫌気・同時硝化脱窒処理法」が、一般社団法人日本産業機械工業会 第46回優秀環境装置表彰「経済産業大臣賞」を受賞（7月）
【概要はP14参照】
- * バーチャル下水道展に出展（8月）
- * 水道事業体向けにセラミック膜ろ過設備（CPCM）のリースを開始（9月） 【概要はP11・12参照】
- * 当社グループ関連プロジェクトがGlobal Water Awards 2020を受賞（9月）【概要はP13参照】
- * 当社子会社 鳥電商事株式会社との吸収合併契約*を締結（9月） *吸収合併は2021年4月1日予定
(参考) 当社普通株式の1株を2株に分割する株式分割を実施（10月）

社会貢献・働き方改革の取り組み

- * 西日本事務所をABW(Activity Based Working)手法でリニューアル（7月） 【概要はP15参照】
- * 当社HP上で出前授業の内容を学べるオリジナル動画を公開（9月～）
- (参考)「メタウォーター下水道科学館なごや」が6月20日リニューアルオープン

サステイナブルな社会インフラ実現に向けて

当社グループは、社会全体でサステイナブルな社会インフラを支える世界の実現を目指し、これからも提案し続けます。



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

6 CLEAN WATER
AND SANITATION



11 SUSTAINABLE CITIES
AND COMMUNITIES



17 PARTNERSHIPS
FOR THE GOALS



コンテナパッケージセラミックモバイル(CPCM)

人口減少が進む国内では、大・中都市が小都市・町村を支える持続可能な社会の実現が不可欠。当社は、長寿命なセラミック膜を活用するなど、新しいビジネスモデルでの寄与を目指す。

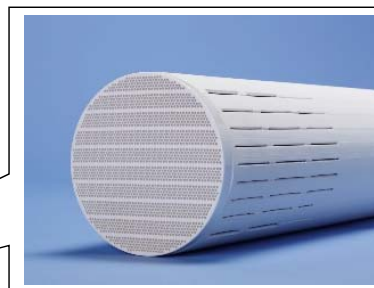


コンテナパッケージセラミックモバイル(CPCM)

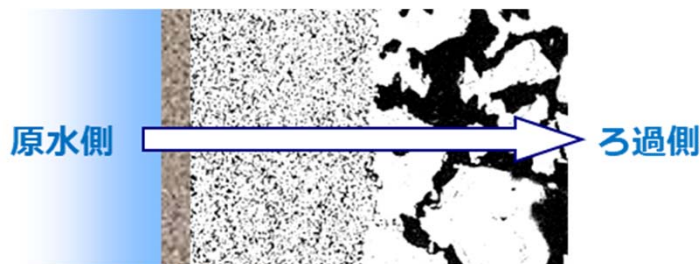
水道事業者向けにコンテナ一体型セラミック膜ろ過設備のリースを開始。
当社が所有するセラミック膜ろ過設備を一定期間、定額料金で提供。

【メリット】

- ① 水道事業者が必要期間に応じて利用可能
- ② 予算の平準化が可能
- ③ 保守サービスも契約に含まれるため安心して利用可能



セラミック膜



分離層 中間層 支持層
0.1μm 0.5μm



コンテナ一体型のため、非常時などにトラックでの移送が可能

コンテナパッケージセラミックモバイル
(Container Package Ceramic Mobile)イメージ図

当社グループ関連プロジェクトがGlobal Water Awards 2020をダブル受賞

【受賞プロジェクト】

Wastewater Project of the Year(下水部門)

Aqua-Aerobic Systems, Inc.がAquaDisk®クロスメディアフィルターを納入した米国カリフォルニア州のPaso Robles下水処理場更新事業



クロスメディアフィルター

Water Project of the Year(水道部門)

当社の戦略的パートナーであるPWNT B.V.がCeraMac®システム(当社セラミック膜を採用)を納入したシンガポールのChoa Chu Kang浄水場更新プロジェクト



稼働を開始したセラミック膜ろ過施設(CeraMac®)



セラミック膜

Global Water Awards は、世界的な上下水道・海水淡水化産業のレポート「Global Water Intelligence」の購読者などの投票により、世界の水関連企業・プロジェクトから選出される水業界において最も重要な国際的功績を表彰するものです。本表彰は、「水セクターのオスカー」とも呼ばれ、授賞式には世界的な著名人も招待されます。

当社では、2015年にセラミック膜ろ過システムが、Water Technology Company of the Year部門で金賞を受賞しました。



優秀環境装置表彰「経済産業大臣賞」受賞

東京都下水道局、東京都下水道サービス株式会社とともに開発した下水道の新たな高度処理技術「嫌気・同時硝化脱窒処理法」が、一般社団法人日本産業機械工業会 第46回優秀環境装置表彰「経済産業大臣賞」を受賞。

【特長】

●水質向上

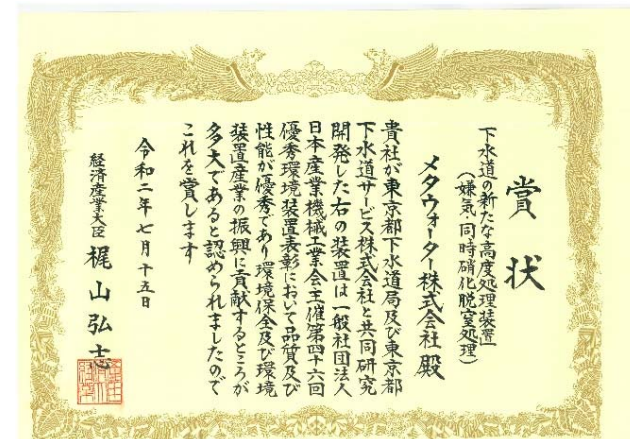
好気タンク内で好気ゾーンと無酸素ゾーンを作り出し、旋回流により硝化と脱窒を繰り返し行い、高度処理同等の処理水質を達成。

●省エネを実現する最適風量制御

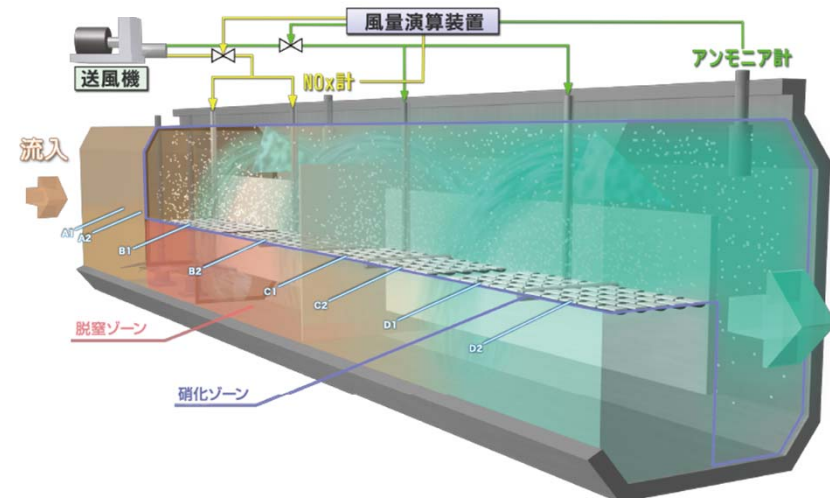
好気タンク内に設置したNOx計とアンモニア計を使って硝化・脱窒状況をモニタリングし、最適な曝気風量を制御。

●改造、維持管理費の低減

- ・高度処理化のための既設土木躯体改造分を低減。
- ・無酸素タンク、攪拌機、硝化液循環ポンプが不要。



【処理フロー概要】



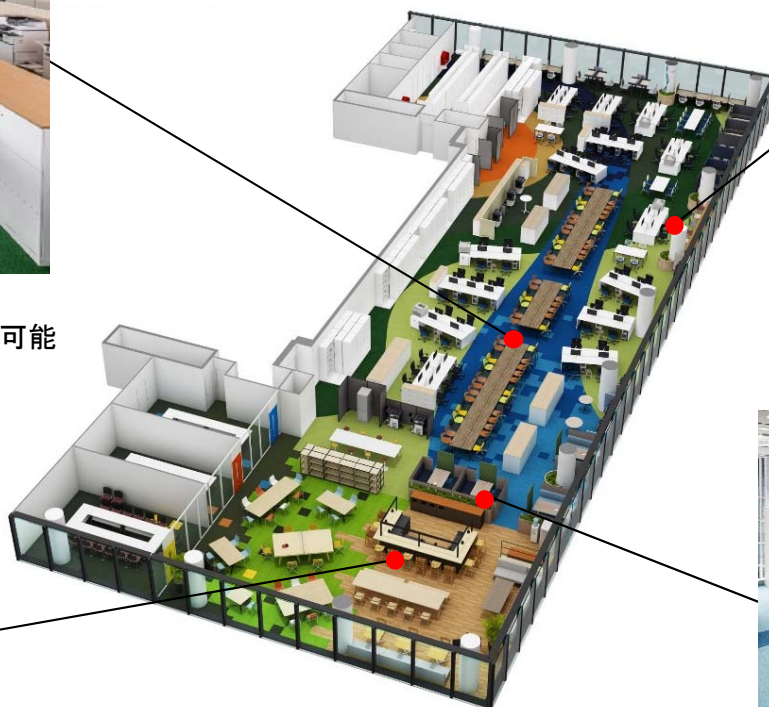
ABW(Activity Based Working)

働き方改革の一環として、働く人自身が仕事内容に合わせて、時間や場所を自由に選択するABWを導入。第1弾として西日本事務所(大阪市)ワークスペースのリニューアルを実施。今後、全国の事業所にもABW導入を拡大予定。



ビッグテーブル

個人・複数人での業務、打合せなど多目的に利用可能



窓側ハイテーブル



コミュニケーション&リチャージエリア

リフレッシュ利用のほか、オープンな会議やイベント開催も可能



ミーティングブース



目次

I 2021年3月期第2四半期決算ハイライト

II 2021年3月期通期業績予想の修正

III 2021年3月期第2四半期決算概要

'21/3期通期業績予想修正(連結)

* 受注高、売上高は、**期初予想に沿って推移する見通し。**

* 一方利益は、コスト削減等の収益改善等により**期初予想を達成する見通し。**

退職給付信託株式売却による未認識数理計算上の差異の一括償却(原価・販売管理費の減少)、慰労金等を織り込み、**営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益の通期業績予想を各々修正。**

(億円)

	受注高	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益	*1株当たり 当期純利益(円)	1株当たり配当金(円)	
							第2四半期末	期末
当初発表予想 (4月27日付)	1,400	1,300	90	90	62	142.70	40	40
今回修正予想	1,400	1,300	105	105	68	156.51	40	(株式分割後) 20
増減額	-	-	+15	+15	+6	-	-	-
増減率	-	-	+16.7%	+16.7%	+9.7%	-	-	-
前期実績	1,250	1,287	82	81	57	115.76	31	40

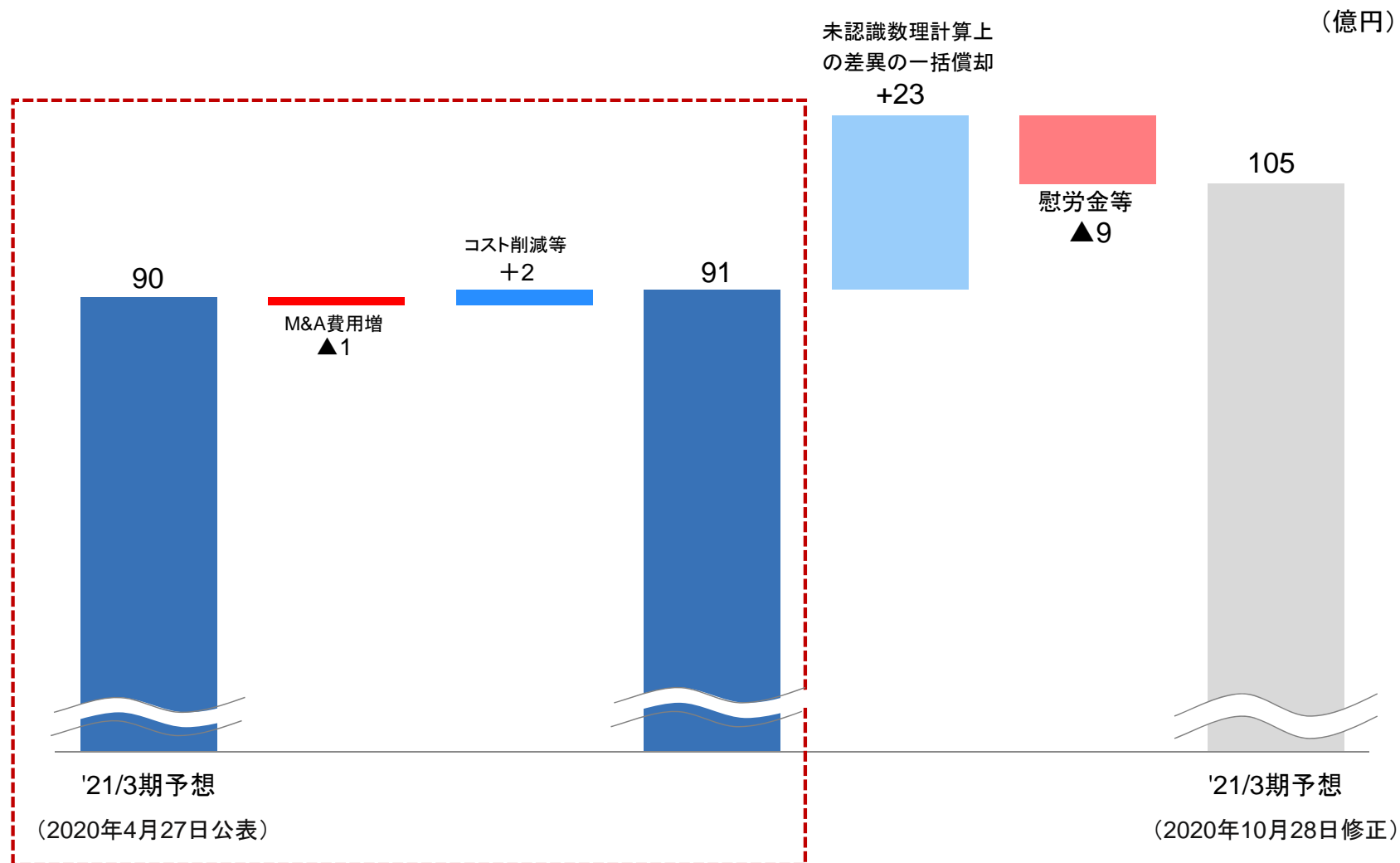
* 2020年10月1日付で1株を2株に分割を実施しております。

1株当たりの当期純利益については、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して算定しております。

営業利益増減要因(対'21/3期予想)

本業ベースの営業利益は(期初予想)90億円に対し91億円となる見通し。

退職給付信託株式売却による未認識数理計算上の差異の一括償却(原価・販管費の減)、慰労金等を織り込み105億円に修正。





目次

I 2021年3月期第2四半期決算ハイライト

II 2021年3月期通期業績予想の修正

III 2021年3月期第2四半期決算概要

Ⅲ 2021年3月期第2四半期決算概要

- 1 連結損益計算書
- 2 セグメント別概況
- 3 連結貸借対照表
- 4 連結キャッシュ・フローの状況ほか

連結損益計算書

(億円)

	'20/3期 2Q累計実績	'21/3期 2Q累計実績	増 減
売 上 高	341	340	▲1
営 業 利 益	-30	-35	▲5
(営 業 利 益 率)	-8.7%	-10.2%	▲1.5%
経 常 利 益	-31	-35	▲5
親会社株主に帰属する 四半期純利益	-22	-27	▲5

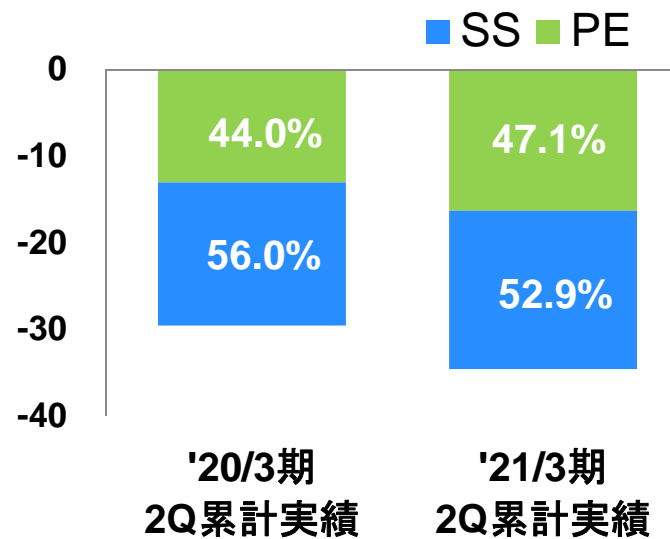
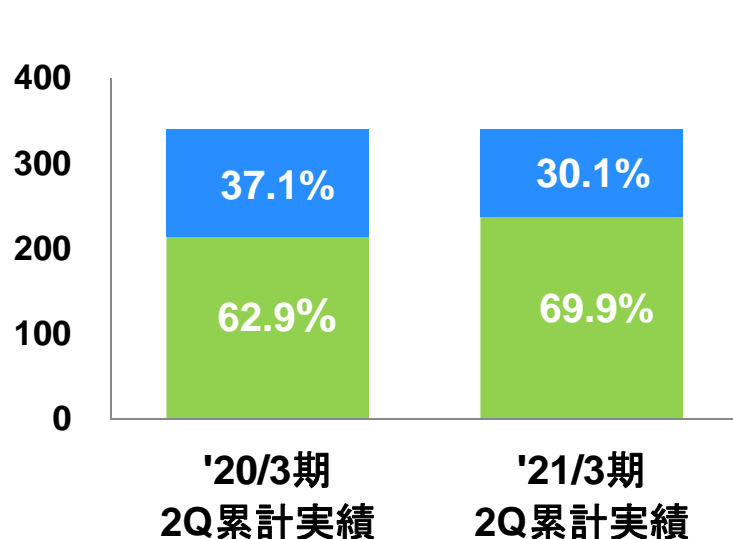
*10百万円単位を四捨五入(以降の実績値も同様)

セグメント別概況

(億円)

	売上高		
	'20/3期 2Q累計実績	'21/3期 2Q累計実績	増減
PE	214	237	+23
SS	126	102	▲24
合計	341	340	▲1

	営業利益		
	'20/3期 2Q累計実績	'21/3期 2Q累計実績	増減
PE	-13	-16	▲3
SS	-17	-18	▲2
合計	-30	-35	▲5



概況	
プラントエンジニアリング	<p>EPC事業においては、売上高および営業利益ともに好調に推移し、前期を上回った。</p> <p>海外事業においては、新型コロナウイルス感染症の影響による売上時期の遅れ等により、売上高および営業利益ともに前期を下回った。</p>
サービスソリューション	<p>O&M事業においては、資源リサイクル分野の売上高が前期を下回った影響等により、売上高および営業利益ともに前期を下回った。</p> <p>PPP事業においては、売上高および営業利益ともに前期と同水準。</p>

連結貸借対照表

前期末の売上債権の回収、買入債務の支払いが完了し、例年どおり現金・預金が増加。

(億円)

	'20/3期 期末実績	'21/3期 2Q末実績	増 減
現金・預金	136	277	+140
売上債権	781	343	▲438
棚卸資産	81	197	+116
その他	21	40	+19
流動資産計	1,019	856	▲163
有形固定資産	32	35	+3
無形固定資産	60	80	+20
繰延税金資産	28	27	▲1
その他	55	60	+5
固定資産計	175	202	+27
総資産計	1,195	1,059	▲136

	'20/3期 期末実績	'21/3期 2Q末実績	増 減
買入債務	355	162	▲193
短期借入金	*1 (9) 11	(9) 11	+0
前受金	90	205	+115
その他	87	70	▲17
流動負債計	543	448	▲95
長期借入金	*2 (98) 114	(94) 108	▲6
その他	42	41	▲1
固定負債計	155	149	▲7
負債計	699	597	▲102
純資産計	496	462	▲34
負債・純資産合計	1,195	1,059	▲136

*1 *2 : カッコ内の数値はPFI等プロジェクトファイナンス・ローンの金額

連結キャッシュ・フローの状況

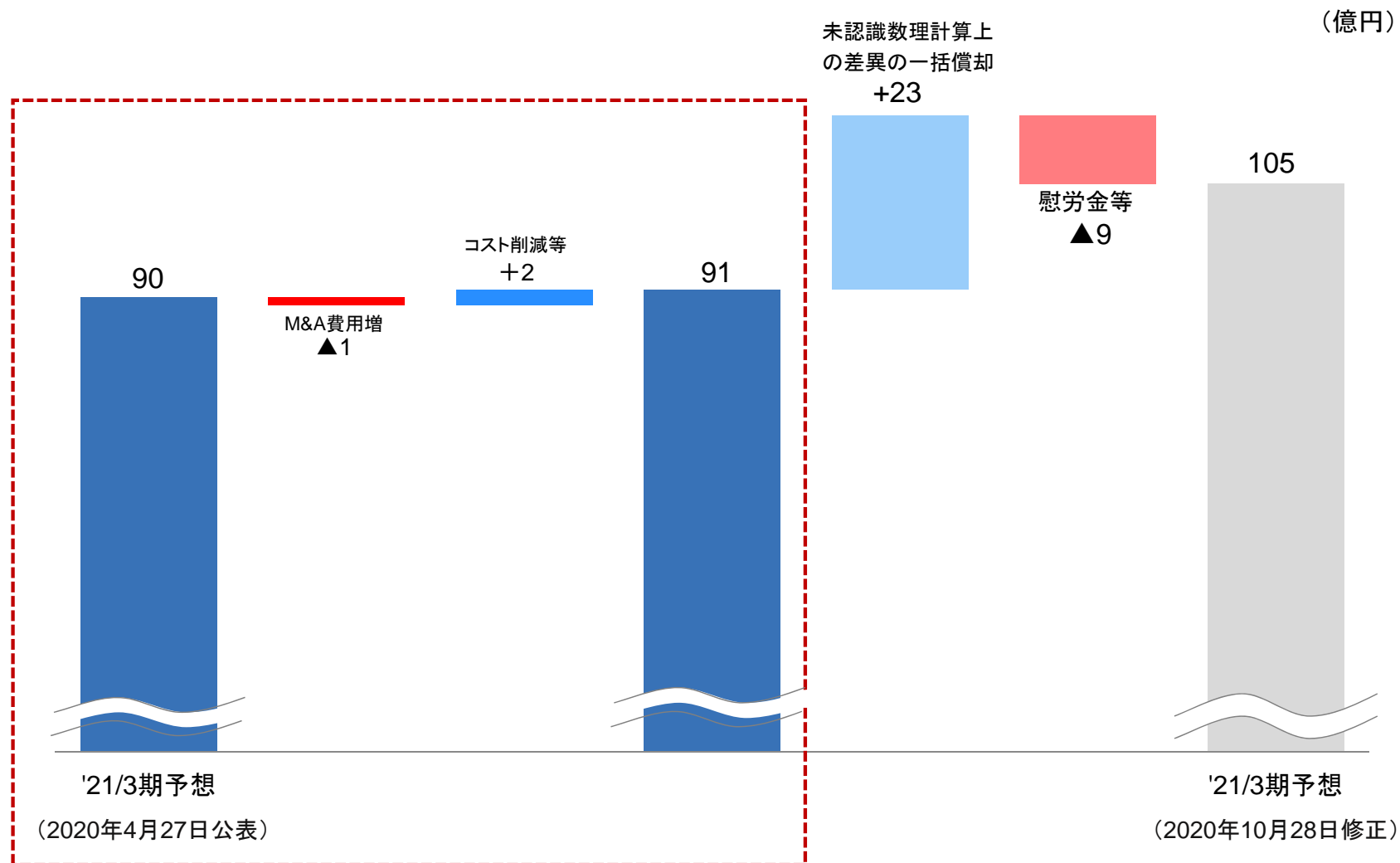
(億円)

	'20/3期 2Q実績	'21/3期 2Q実績	増 減
現金・現金同等物の前期残高	278	129	▲149
営業キャッシュ・フロー	154	189	+34
投資キャッシュ・フロー	-12	-33	▲21
フリー・キャッシュ・フロー	142	156	+14
財務キャッシュ・フロー	-14	-14	▲0
現金・現金同等物に係る 換算差額	-0	-1	▲0
現金・現金同等物の期末残高	405	269	▲136

営業利益増減要因(対'21/3期予想)

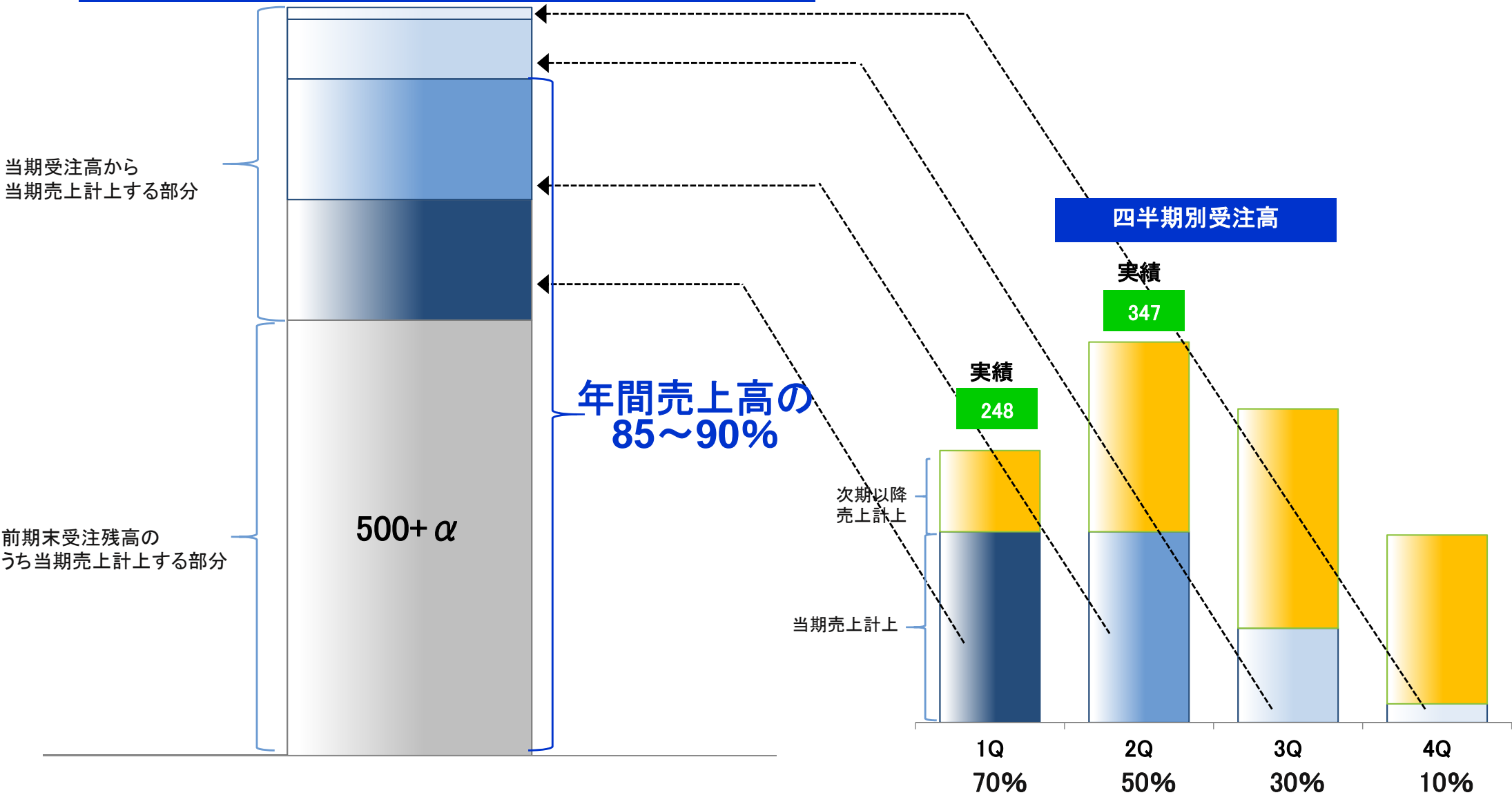
本業ベースの営業利益は(期初予想)90億円に対し91億円となる見通し。

退職給付信託株式売却による未認識数理計算上の差異の一括償却(原価・販管費の減)、慰労金等を織り込み105億円に修正。



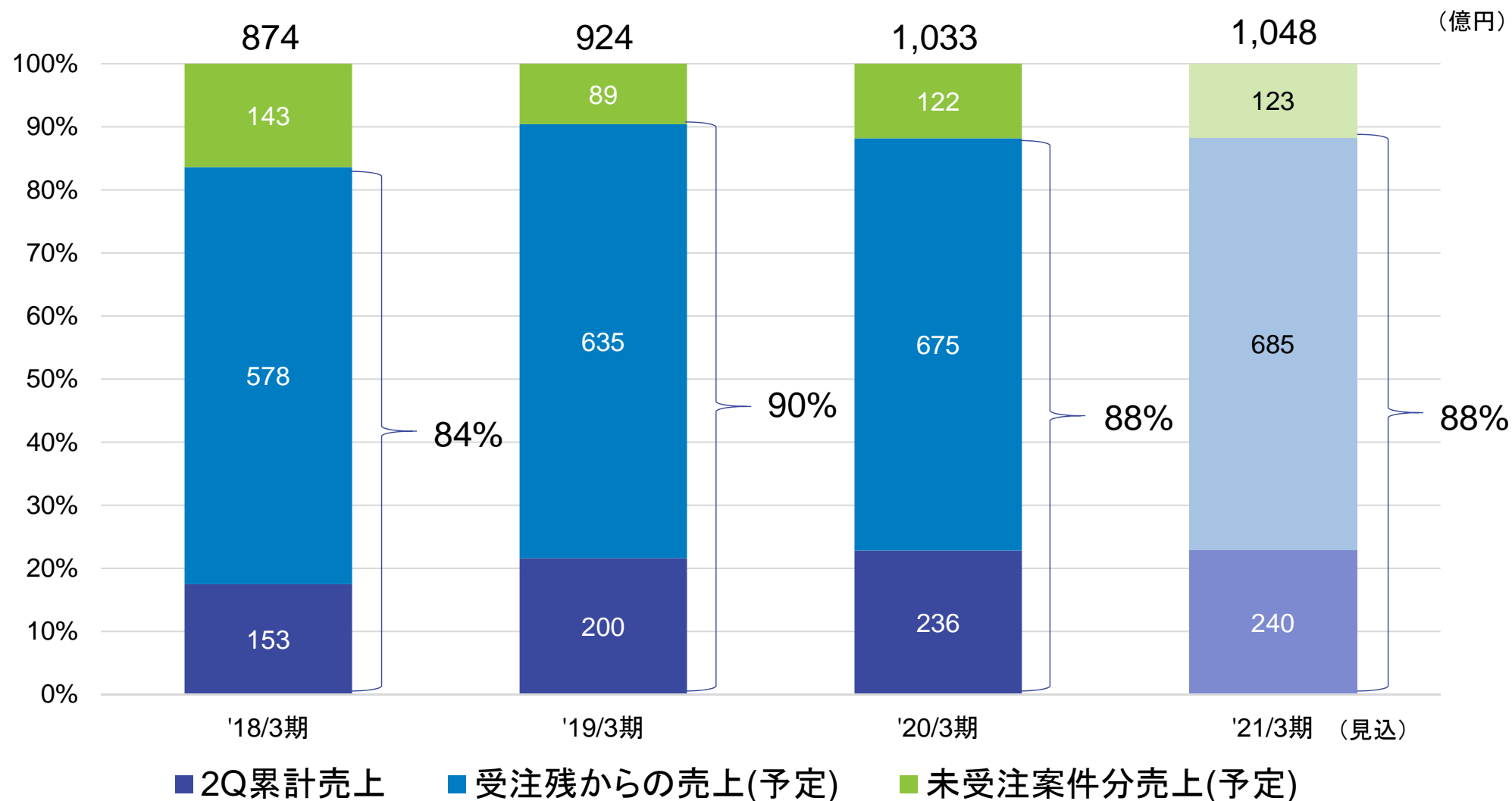
'21/3期の売上高構成について(単体)

'21/3期売上高予測 1,040~1,060億円
前期売上実績 1,033億円



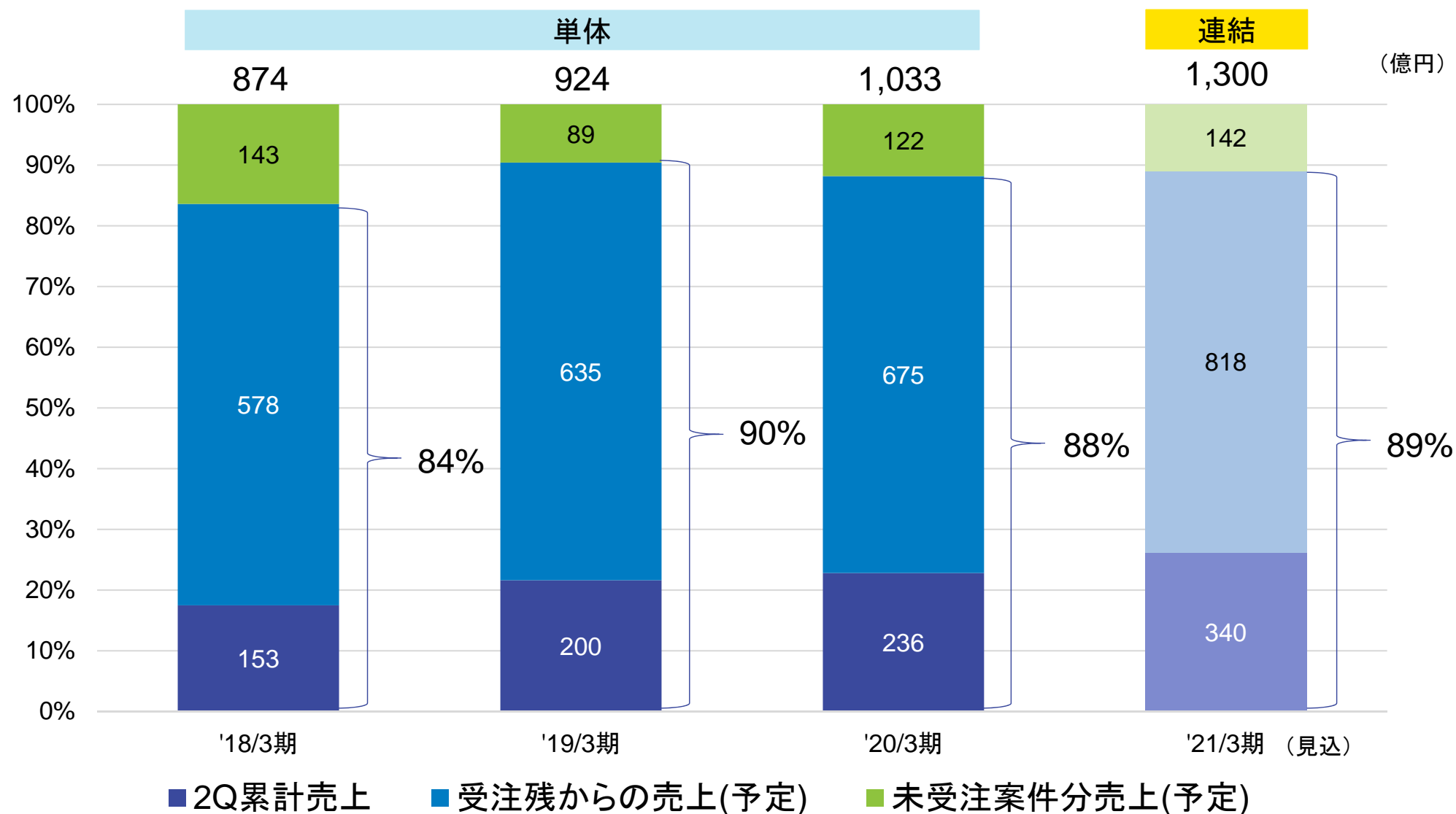
'21/3月期の売上高充足率状況(単体)

20/2Q累計売上と受注残高からの今期売上予定案件が単体売上目標の88%を占める。



'21/3月期の売上高充足率状況

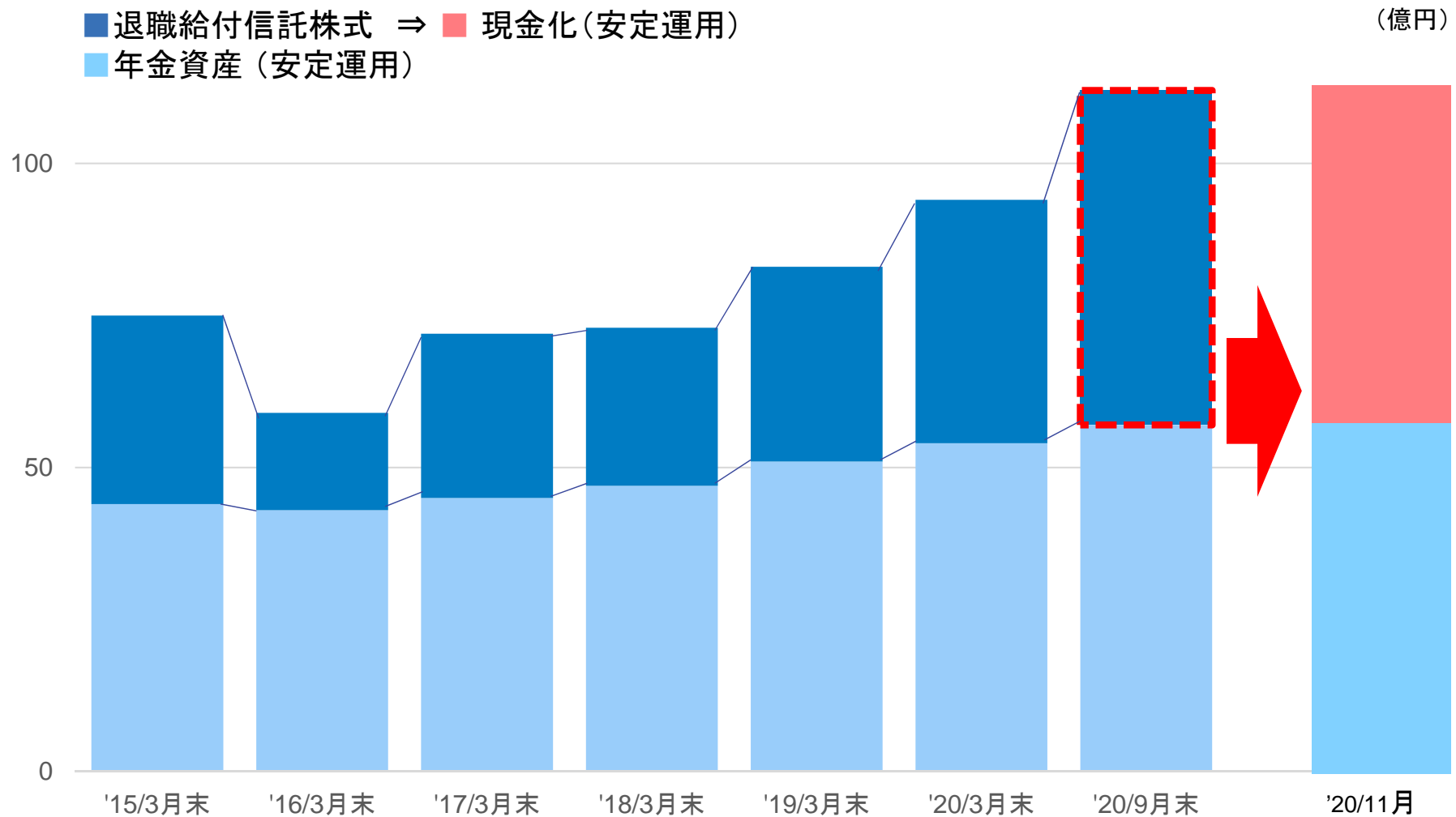
20/2Q累計売上と受注残高からの今期売上予定案件が連結売上目標の89%を占める。



※2017~2019年度は単体数値、2020年度は連結数値

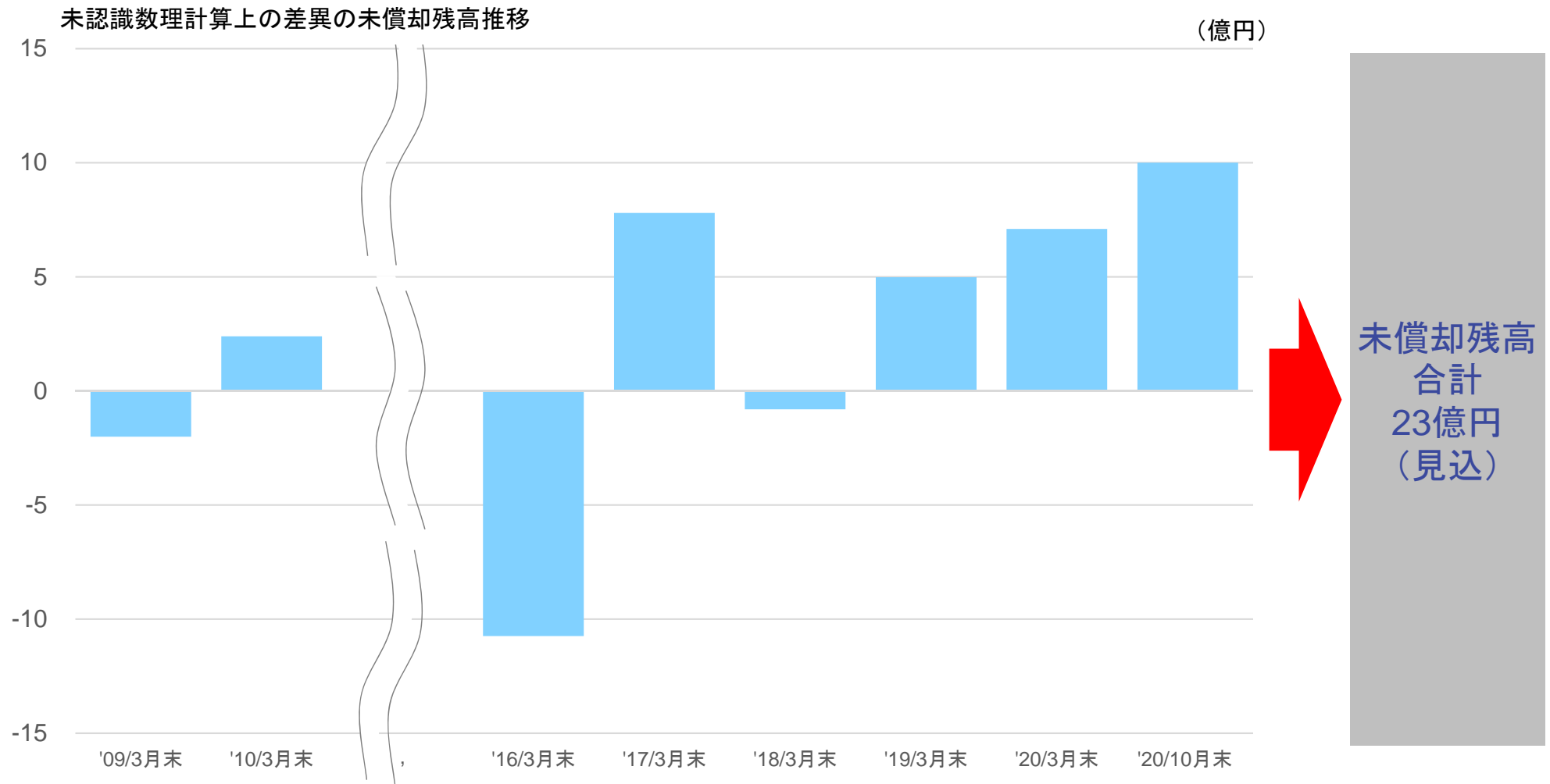
退職給付信託の安定化①

退職給付信託の安定化のため、拠出している株式を売却し価格変動リスクのない資産（現預金等）で信託する。



退職給付信託の安定化②

特定銘柄における毎年の評価損益を複数年(14年)で償却してきた。
 これら未認識数理計算上の差異の一括償却(原価・販管費の減)を行う。



ディスクロージャーポリシー

1. 基本方針

当社グループは、企業理念に基づき、社会とともに持続的な発展を遂げるため、すべてのステークホルダーの皆様の期待にお応えし、社会から信頼され、社会に貢献し続ける企業グループを目指します。この考え方にのっとり、当社グループは、ステークホルダーの皆様や社会に対して当社グループに係る企業情報を公正・公平かつ適時・適切に開示するとともに、ステークホルダーの皆様と積極的にコミュニケーションを図ることにより、当社グループに対する理解促進を図り、透明性・信頼性の高い経営に努めます。

2. 情報開示の基準

会社法、金融商品取引法などの諸法令および金融商品取引所の定める規則などにより開示が求められる企業情報について、それぞれの法令や規則などにのっとり、情報開示を行います。また、法令や規則などに該当しない企業情報であっても、ステークホルダーの皆様にも有用であると判断される情報や社会的に開示が必要と判断される情報について、可能な限り積極的に情報開示を行います。

3. 情報開示の方法

上記の法令や規則などにより開示が求められる企業情報については、それぞれの法令や規則などで定められた方法により情報開示を行うとともに、当社ホームページに掲載します。上記の法令や規則などに該当しない企業情報については、その重要性や緊急性を考慮し、報道機関や当社ホームページなどを通じて情報開示を行います。

4. 情報開示後のコミュニケーション

開示した情報に関して、会見、説明会、取材、問い合わせへの回答などを通じ、ステークホルダーの皆様と積極的にコミュニケーションを図ります。また、コミュニケーションを通じてステークホルダーの皆様からいただいたご意見などは、当社グループ内で共有し、今後の参考とさせていただきます。

5. 沈黙期間

決算情報の漏洩を防ぎ、公平性を確保するため、決算（四半期決算を含む）期末日の翌日から決算発表までを沈黙期間とします。沈黙期間中は、業績予想の修正に関する情報開示を行った場合を除き、決算・業績見通しに関する会見、説明会、取材、問い合わせへの回答など差し控えます。

6. 将来の見通しについて

当社グループが開示する業績予想、戦略、目標などのうち将来の見通しに関する記述は、当社グループがその時点で入手している情報および合理的であると判断される一定の前提を根拠としており、実際の業績などは様々な要因により異なる結果となる可能性があります。

7. 社内体制の整備

ディスクロージャーポリシーを遵守し、適切な情報開示およびステークホルダーの皆様とのコミュニケーションが図れるよう、社内体制を構築するとともに社内規程を整備します。



【本資料に関するお問い合わせ先】

メタウォーター株式会社 経営企画本部 CSR推進室 広報IR部

Tel:03-6853-7317 Fax:03-6853-8709 E-mail:pr@metawater.co.jp

補足資料 案件リスト

工事受注(10億円規模以上)

	案件名	都道府県	セグメント
1Q	南部流域処理場電気設備工事その4	埼玉県	PE
	燕市・弥彦村統合浄水場等整備事業	新潟県	SS(PPP)
2Q	森ヶ崎水再生センター(東) 反応槽機械設備再構築その3	東京都	PE
	南部汚泥処理プラント汚泥焼却設備再構築その2工事	東京都	PE
	北部流域処理場汚泥焼却設備工事	埼玉県	PE
	中清環第1号 中津市クリーンプラザ基幹的設備改良工事	大分県	SS

運転・維持管理 新規受託/業務開始

	案件名	都道府県	セグメント
1Q	秋田県県北地区広域汚泥資源化事業 維持管理・運營業務委託 [業務開始(既受託分)]	秋田県	SS
	伊勢原浄水場 運転維持管理業務委託 [業務開始(既受託分)]	神奈川県	SS
	伏見 水処理施設運転管理委託 [業務開始(既受託分)]	京都府	SS
	(仮称)新ごみ処理施設整備・運營業務 [新規受託]	東京都	SS